

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	鳥山 純子 【ジェンダー学際研究専攻】	<p>本論文は、長期の民族誌的調査に基づき、現代エジプト・カイロ圏において「近代」を象徴する重要な場の一つと認識されている私立学校で教員として働く女性たちの生き方を記述し、イスラーム教徒社会の「今」に生きる女性たちの意識と行為主体性の在り方を析出するとともに、女性学校教員の日常実践の視座からエジプト国家の近代化の特質を捉えることを目的とする。さらに本論文は、カイロ圏に生きる女性たちの生き方に関する記述をエジプト国家の個別の問題群において文脈化して分析するだけでなく、ジェンダー研究における「イスラーム・イメージの誤用」に対する広範な理論的かつ批判的な検討を経て、中東地域におけるジェンダー研究に新たな視角を拓くことを目的とする。</p> <p>本論文の第一の意義は、十数年に亘る臨地経験に基づく生活者目線での民族誌的記述そのものにある。第二の意義は、エジプト「近代」の一つの前線にいる女性学校教員たちのライフストーリーの詳述を基軸に、「シャクセイヤ」(文脈を操作する力)、「クバール」(能力と知識を備えた社会的自律性)、「ヘルワ」(美しさ)というカイロ圏の女性の行動実践を支える3つの準拠枠を析出し、その3つの準拠枠が「自己の目的合理性」・「国家の発展」・「消費を享受する豊かさ」という3つの異なる近代性イデオロギーの異なる配分での混淆の結果として生み出されたものであるという分析結果の新規性にある。第三の意義は、3つの異なる近代性イデオロギーの混淆が女性の「生」の在り方の複数性を生み出したという見解に立脚して、「イスラームのジェンダー秩序」という一枚岩の上に乗った従来の中東ジェンダー研究の議論を批判し、(イスラームも含めた)複数のイデオロギーの交渉の渦中に女性たちの「個」の「生」を捉えることであるという主張の独自性にある。近代性を巡る理論的検討は一層の精緻化を要するものの、本論文は今後の中東ジェンダー研究に重要な貢献を成すものと高く評価される。</p> <p>平成26年11月28日と平成27年2月16日に審査委員会を開催し、民俗語彙の用法、エジプトの政治・経済・社会の変遷と変動に関する理解、権力概念と近代概念を巡る理論枠組、民族誌記述に関わる研究者の位置性と自己省察、等々について論議が重ねられたが、その結果を受けて適切な修正が施された。</p> <p>平成27年3月2日に公開発表会と最終試験を実施した。公開発表会及び最終試験での質疑応答の内容を含め、最終審査会では、委員全員が一致して本論文が学位取得に相応しい水準に達しているものと判定した。よって、本審査委員会は申請者に対してお茶の水女子大学博士(学術)、Ph.D. in Anthropology and Gender Studiesの学位授与を適当と判断した。</p>
論文題目	現代カイロで女性学校教員として生きること -日常実践からの中東ジェンダー論再考-	
審査委員	(主査) 教授 棚橋 訓	
	教授 三浦 徹	
	准教授 申 琪榮	
	教授 熊谷 圭知	
桜美林大学人文学系 教授 鷹木 恵子		
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ ㊦)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">㊦. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">㊧. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	